観点・小問ごとの分析	対策の視点
5 文・文章を読む 一、段落の区切りがわかる 正答率32%と低い。誤答の中では、「③の文の終わりでくぎる」が、最も多かった。	◦ 意味段落に分ける問題である。段落分けの指導で大切なことは、指示語や接続語を的確にとらえながら、文と文の意味のつながり、文のまとまりとしての段落を考えさせることであろう。
二、段落の要点を読み取る 誤答の中で③を中心文ととらえたものが多かった。文頭の「たとえば」という例を導く言葉を考えに入れないための結果であろう。④を中心文としたものも多い。これは、文章の最終段落が、文章全体のまとめとなるという先入観にとらわれたためであろう。 正答率は31%と低い。	◦ 段落内の中心文を見つけるには、文と文との意味関係をとらえる力を育てていく必要がある。文図などを書かせ、論理的な結びつきを理解させていくような手だてが効果的である。
三、段落相互の関係をとらえ、文章の要旨・主題をとらえる。 1.は問題提起をしている文を選択させる問題であるが、③と答えた誤答が多い。正答率65%。 2.の正答率は39%と低い。③・④が、並列となり、⑤の「このように」が、それらを受けていることに気づいていないためであろう。 3.要旨を読み取る問題である。71%とよい正答率を示している。	◦ 段落の小主題をはっきりさせたり、指示語や接続語の働きをよく理解させたりしながら、文章の全体の構造をとらえさせることが大切である。
四、主語・述語がわかる 1.の正答率は88%と非常によい。 2.は1.と比べて正答率45%とかなり低い。2.の文は、そう入句があったり、修飾・被修飾の関係が入り組んでいて、文の構造が複雑なためであろう。	◦ 主語・述語の関係については、低学年よりしっかりと指導することが大切であろう。 ◦ 主語が明確でない文については、逆に述語をおさえてから主語を見つけさせる方法も効果的であろう。